



第4期 北名古屋市
地域福祉計画・地域福祉活動計画

2022年度～2026年度

概要版



2022年3月

北名古屋市・北名古屋市社会福祉協議会

地域福祉計画・地域福祉活動計画ってなに？

ぼくたち、北名古屋市市民協働マスコットキャラクター、つじぼんと、つじぷうです。



わたしたちが、新しくできた「第4期北名古屋市地域福祉計画・地域福祉活動計画」のことを紹介しますね。

活発で面倒見がいい兄“つじぼん”

のんびり屋でマイペースな妹“つじぷう”

北名古屋市では、市民の皆様による様々な特徴的な活動が展開されています

支部社協活動

自治会単位に設立され、福祉の集いや夏祭り・秋祭りなど、それぞれの支部社協で独自の取組みを行っています。

コロナ禍によって、多くの活動が休止・制限されましたが、令和2年度(2020年度)も26支部の39事業が実施されました。



熊之庄地区の支部社協活動(令和2年度(2020年度))

地域回想法の取組み

昭和の懐かしい生活資料を常設展示する「昭和日常博物館」と、古民家を活用した「回想法センター」(旧加藤家住宅)を拠点に、思い出をふれあうことで認知症予防や地域づくりにつなげる「回想法事業」を推進しています。

回想法スクールの同窓グループは70を超え、「いきいき隊」と称して、回想法センターの見学の案内係や、昔の遊びを通じた子どもたちとの交流など、様々な場で活躍しています。



「いきいき隊」の世代間交流事業

生活支援体制構築事業の取組み

「生活支援体制構築事業」は、「地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター)」を調整役として、身近な地区ごとに、住民主体による協議体活動を展開し、地域ごとの生活課題を抽出して必要な支援を参加者どうしで考える活動です。

この活動を通じて、一部の地域では、住民参加型在宅福祉サービス「おたすけ隊」が創設されるなど、支え合いの取組みが進んでいます。



協議体で地区の課題や資源について話し合う皆さん

地域住民、自治会、ボランティア、事業者など、多様な主体が参画し、世代や分野を超えてつながることで、包括的な支援を行う「地域共生社会」づくりが求められています。

このため、市は、各福祉計画に共通する基本理念を掲げ、横つなぎをしながら各福祉計画の下支えを強化することにより、他分野と連携を図る「地域福祉計画」を策定します。

また、地域福祉の中核的役割を担う北名古屋市社会福祉協議会が、地域住民や関係団体などと相互協力し、地域福祉を推進していくための「地域福祉活動計画」と一体計画として策定します。

計画期間は、令和4年度(2022年度)～令和8年度(2026年度)までの5年間です。

地域福祉計画・地域福祉活動計画の位置づけ

北名古屋市

第2次北名古屋市総合計画

「健康快適都市」～誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまち～

北名古屋市の健康・福祉が目指す基本理念

分野別関連計画

人口ビジョン、
まち・ひと・しごと
創生総合戦略

都市計画
マスタープラン

教育大綱

男女共同
参画プラン

地域防災計画

その他関連計画

連携

制度のはざまにあるなど地域生活課題を抱える方

介護保険事業計画・高齢者福祉計画

障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画

子ども・子育て支援事業計画

けんこうプラン21(健康増進計画)

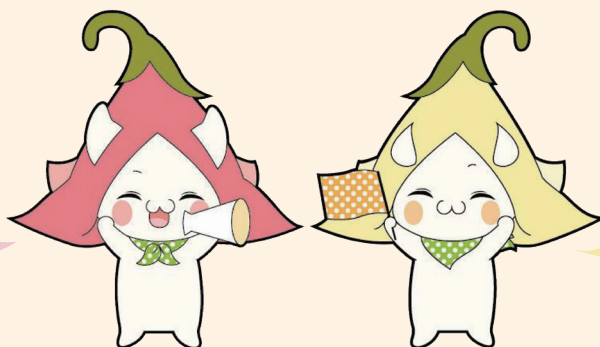
食育推進計画

地域福祉活動計画

北名古屋市社会福祉協議会

地域福祉計画 各計画を横つなぎ・下支え

がんばっている市民を応援する計画なんだね!



コロナ禍で制限された活動を再開し、人のつながりを深めるための計画でもあるのよ!

どんなまちづくりを進めるの？

住民と行政と事業者が、力をあわせて進めるよ。



計画は、作りっぱなしでなくて、毎年、検証することが大事だね！

本計画では、基本理念を「出会い ふれあい 支えあい 共に生きるまち 北名古屋」と定め、3つの基本目標と、9つの主要施策、31の個別施策を掲げます。

本計画の基本目標ごとに、国際連合のSDGs(持続可能な開発目標)との関係性を示し、持続性と実効性のある計画を目指しています。



基本理念

出会い ふれあい 支えあい 共に生きるまち 北名古屋

基本目標1 北名古屋ならではの特色ある包括支援の推進

今後、福祉ニーズはますます増大するとともに、サービス利用などに結びついていない「制度のはざま」への対応など、ニーズに応じた柔軟な支援が一層求められます。

このため、分野ごとに質の高い福祉サービスを、各事業所の協力を得ながら、安定的に提供することを基本にしつつ、各課、関係機関・団体が連携した包括的な相談支援を実施します。北名古屋ならではの特色ある包括支援を推進することで、市民一人ひとりが安心して住み続けられる地域づくりを推進します。

主要施策	個別施策
1 福祉サービスの充実と総合化	<ul style="list-style-type: none">① 高齢者介護・福祉サービスの充実② 障害福祉サービスの充実③ 子ども・子育て支援サービスの充実④ 保健・健康づくり事業の充実⑤ 「サービスの総合化」の取組みの推進
2 包括的な相談支援の推進	<ul style="list-style-type: none">① 高齢者への相談支援の充実② 障害者への相談支援の充実③ 子ども・子育てに関する相談支援の充実④ 生活困窮者自立支援の充実⑤ 地域住民による相談支援の充実⑥ 「相談支援の『包括化』」の推進
3 介護・福祉人材の確保と優れた事業所づくりへの支援	<ul style="list-style-type: none">① 介護・福祉人材の確保にむけた取組みの推進② 優れた事業所づくりの支援

基本目標2 支えあい協力し合うネットワークづくりの推進

高齢化や核家族化、都市化などの社会変化により、地縁による近所づきあい、地域行事が希薄化しており、新型コロナウイルス感染症による外出の自粛などが長期化する中で、不安や困難を感じながら生活している市民の存在もあります。

災害や事故などに対する不安、交通弱者の生活困難、権利侵害の防止など、市民の日常生活の課題を行政サービスですべて解決することは困難であり、インフォーマルサービスなどを含め、福祉だけでなく様々な分野横断の取組みを進め、互いに支えあい、協力し合うネットワークづくりを図ることで、その軽減・解消につなげ、住み良い地域を維持していきます。

主要施策	個別施策
4 多分野・多職種協働の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 庁内の連携・協働体制づくり ② 地域での多分野・多職種協働の体制づくり
5 地域安全活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 避難行動要支援者への支援ネットワークづくりの推進 ② 自主防災力の強化 ③ 地域ぐるみの防犯・交通安全活動の推進
6 権利擁護の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 人権や多様性の啓発・教育の推進 ② 虐待・ハラスメント防止の推進 ③ 判断能力が不十分な方への支援の推進

基本目標3 「主客交代」できる地域づくりの推進

市では、日々、地域福祉活動が盛んに行われています。こうした活動は、地域をよりよくするための自発的な活動が含まれており、より多くの参加が得られるほど有意義な活動となるばかりか、地域をより豊かにしていきます。

このため、「おたがいさま」の合言葉のもと、市民一人ひとりが、自分自身ができる取組みを積極的に行えるよう、意識啓発、人材育成を進め、性別や年代、分野を超えて、誰もが社会参加し互いに支え合う「地域共生社会」づくりを推進します。

主要施策	個別施策
7 地域共生社会づくりの啓発	<ul style="list-style-type: none"> ① 情報のバリアフリー化 ② 子どもたちの福祉教育・福祉交流の拡充 ③ 市民の福祉教育・福祉交流の拡充
8 地域で輝く人材・組織の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域コミュニティ組織の活性化 ② ボランティア活動・市民活動の活性化 ③ 高齢者の働き甲斐づくり ④ 障害者などの就業・日中活動の促進
9 市民との協働による支援事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活支援体制構築事業の推進 ② 市民との協働による「通いの場」づくりの推進 ③ 多様な住民参加型在宅福祉サービス団体の育成

市民は何をしたらいいの？

身近な地域で自分ができることをマイペースでやればいいよ！



「おたがいさま」の気持ちを持って、楽しみながら参加していきたいな！

本計画を実行性あるものにするために、6中学校区別にワークショップを開催するなど、住民参加の計画づくりを進めました。

ワークショップの様子



ワークショップでの意見(抜粋)

- ★北名古屋市は、自助・共助に取り組むには、恵まれた地域である。参画する意識さえあれば、サロンなど、様々な地域資源があり、他市住民からうらやましがられる。
- ★誰が来てもいいよ、という交流の場を作っていくことが大事。
- ★従来からの地域活動の参加者が減る中、異世代が「コラボ」する新しいしくみができるとうれしい。
- ★「地域で本当に困っている人」の存在が分かりづらい。困っていても、普通は口に出したり、その素振りを見せない。知的障害者、認知症の人など、意思疎通しづらい人に気持ちを寄せていくことも大切。
- ★多くの地域活動が、この2年間、コロナ禍で休止を余儀なくされており、今後の実施手法を考えていけないといけない。
- ★若夫婦と高齢者など、地域の多世代をつなぐ「コールセンター」のようなしくみを作ったらいい。経験してきたことを、これから経験する人たちに伝える。それをつなぐ。

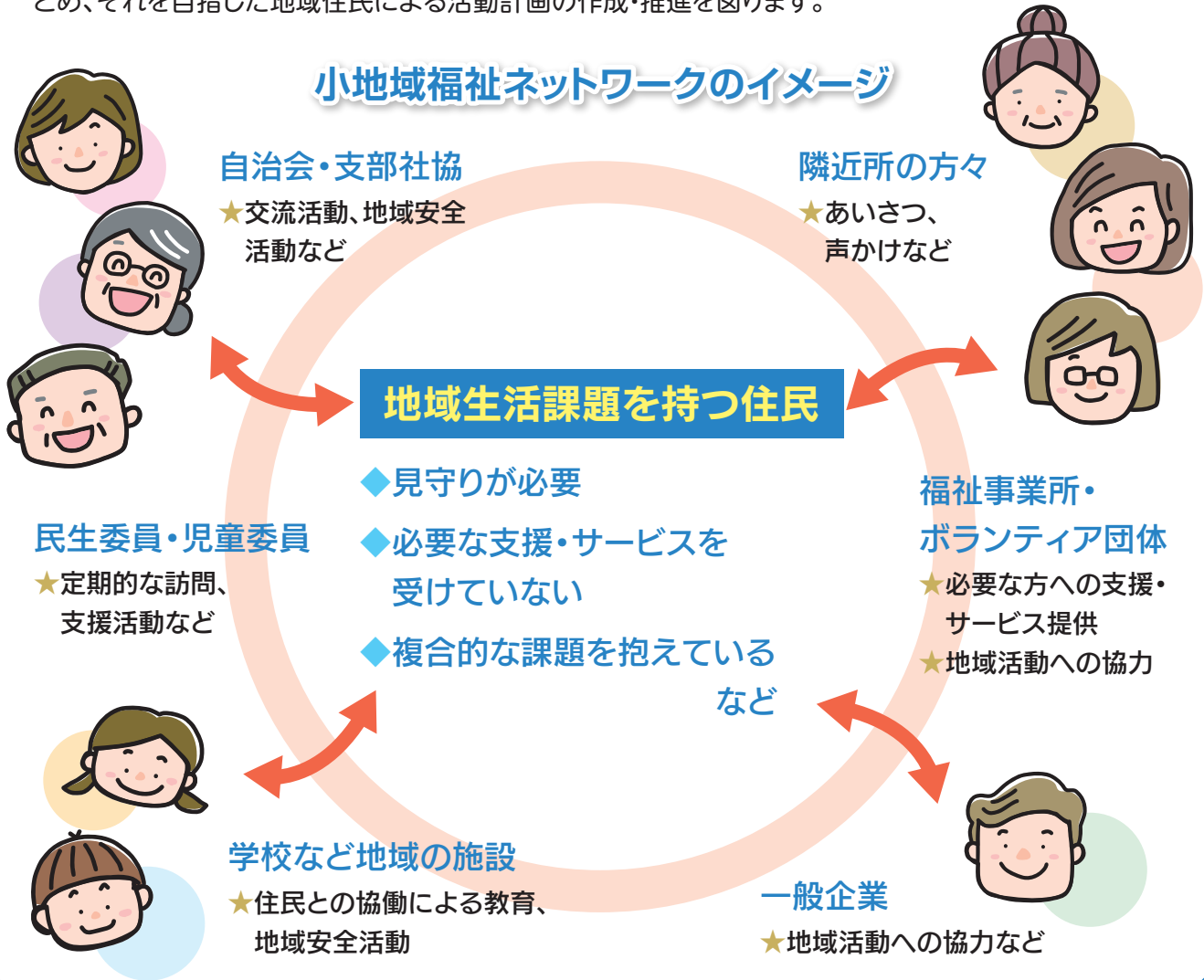
「小地域福祉ネットワーク」を強化していきます

地域福祉を推進する活動単位に、「小地域福祉活動」があります。

「小地域福祉活動」は、自治会や小・中学校区などの小地域を基礎に住民どうしのつながりを深め、地域生活課題の解決を目指す活動で、市では、これまでも、支部社協活動や地域ふれあいサロン活動、民生委員・児童委員活動などが展開されています。

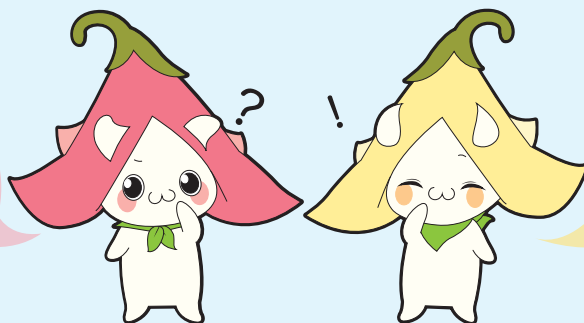
「小地域福祉活動」は、「地域共生社会づくり」にむけ、複合的な課題やはざまの課題の解決につながる「重層的な支援」のネットワークとなることが重要であり、地区の現状や地域住民の意識・ニーズをまとめ、それを目指した地域住民による活動計画の作成・推進を図ります。

小地域福祉ネットワークのイメージ



この小地域福祉ネットワークの強化を目指し、令和4年度(2022年度)より、北名古屋市社会福祉協議会が中心となって、この地区計画やアクションプランづくりに着手していきます。

地域にどんな活動があるのか、分からない場合はどうしたらいい?



北名古屋市社会福祉協議会に、地域福祉活動をコーディネートする人がいるから、気軽に聞いてみるといいよ!

北名古屋市社会福祉協議会の取り組みは？

北名古屋市社会福祉協議会が、どんな取り組みを進めるか、紹介しますね。



北名古屋市社会福祉協議会
マスコットキャラクター “にこりん”

小地域福祉ネットワークを強化するために

市民ワークショップを開催します!!

「超少子高齢・人口減少」の進行とともに地域社会の構造が激変し、社会的ニーズもこれまで以上に大きく変容する中、地域生活課題も複雑・多様化しています。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域の福祉課題を把握・共有するとともに、サービスの担い手の創出・養成などを推進するため、支部社協を対象に、令和4年度から、毎年ワークショップを開催します。

また、持続可能で効果的な地域福祉活動を行うために、支部社協の組織再編も視野に入れ、小地域福祉ネットワークの強化を図ります。

包括的な支援体制を整備するために

相談支援の包括化

相談支援は、「具体的な課題解決を目指すアプローチ」だけでなく、「つながり続けることを目指すアプローチ」もあわせて進めていくことが有効であり、地域福祉推進団体としての強みを生かし、「伴走支援」と「地域住民の気にかける関係性づくり」に努めます。

また、それぞれの分野における課題を縦割りに捉えるのではなく、連携支援のできる「ワンストップ型の窓口」の設置により、包括的な相談支援体制を構築します。

生活困窮者自立支援の充実

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、生活困窮に陥った人々に対する様々な制度(特例措置)などの支援も打開に向けた見通しが立たず、さらには、生活困窮者自立支援制度や住居確保給付金などの重要性が広く認識されたものの、自営業者など、制度がこれまで主な対象と考えていなかった多様な人々も現れており、こうした人々の多様な事情をもう一度受け止め直し、必要な関係機関と連携を図りながら、個別のケースに寄り添った相談支援を行います。

コロナ禍で見えてきた課題の解決を目指していきます。



皆様からのご相談を、お待ちしております。



※第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の全内容はホームページに掲載し、また数量限定ながら冊子でも配布しております。

【発行】北名古屋市・北名古屋市社会福祉協議会 【発行年月】2022年3月

【編集】◆北名古屋市福祉部社会福祉課

〒481-8531 北名古屋市西之保清水田15番地 電話(代) 0568-22-1111 FAX 0568-24-0003

【ホームページ】<https://www.city.kitanagoya.lg.jp>

◆北名古屋市社会福祉協議会

〒481-0033 北名古屋市西之保藤塚93番地 電話 0568-25-8500 FAX 0568-25-1911

【ホームページ】<https://kitanagoya-shakyo.jp>

